

「かたいもの」および「かみにくいもの」に
対する児童の意識の実態

○内藤真理子, 川原玲子*, Dai Wenyu, 木村光孝
(九歯大・小児歯, *東筑紫短大・食物栄養)

【目的】近年、子供の咀嚼不足が注目されている。演者らが児童を対象に毎年実施している食生活調査においても、「かたいものをよく食べるか?」という設問を採り入れ、傾向を探っている。今回、「かたいもの」「かみにくいもの」に対する意識について、実態をより正確に把握する目的で、さらに詳細な調査を実施し、調査間の比較検討を行った。

【対象および方法】北九州市内の小学校の2,4および6学年の児童98名を調査対象とした。食生活に関する自記式の質問票調査を行った後、口腔保健に関する項目を中心とした自記式の質問票調査を実施した。

【結果および考察】食生活調査において「かたいものをよく食べる」と回答した児童は50名であった。口腔保健調査において、そのうちの24名(48%)が「かみにくいものはとくにない」、20名(40%)が「かみにくいものをいやがらずに食べる」と回答していた。「かたいものをあまり食べない」と回答した45名中、「かみにくいものはとくにない」と回答した児童は4名(9%)、「かみにくいものはいやだけど食べる」あるいは「食べない」と回答した児童は19名(42%)であった。「かみにくいもの」として、「スルメ」や「肉類」、「パンのみみ」等の回答が認められた。また、「かたいものをよく食べる」と回答した児童のうち17名(34%)は「パンのみみ」を、7名(14%)は「リンゴ」をかたいと回答した。

「かたいものをよく食べる」と回答した児童は、「かみにくい」食品に対しても抵抗感が小さく認められた。児童が考える「かたいもの」と「かみにくいもの」には違いが認められ、「かたい」と考える食品の硬さに幅があったことから、これらの設問には配慮が必要と思われた。

当医院における口腔筋機能療法について

○杉岡千津、杉本いとみ、年縄壮夫、
田中克明、大野秀夫

おおの小児矯正歯科(下関市)

口腔筋機能療法(MFTと略)とは、顎口腔系の筋機能異常を除去し、嚥下、咀嚼、発音時の正しい舌位を習得させるための訓練を言う。舌位の異常、口唇弛緩など軟組織の不調和は、不正咬合を誘発し、さらに重篤な機能異常へと発展することもある。顎口腔系の機能ユニットを育成する意味から、MFTは小児歯科の臨床において非常に重要な手段と考えられる。

しかしながら、日常無意識に行っている舌突出癖や指しゃぶりなどの悪習慣を中止させることは、患児にとっても医療者側にとっても容易なことではない。

そこで、今回、子どもの顎口腔系の機能に焦点をしぼり、当医院で行っているMFTの考え方と方法について発表する。